

川の瀬を見つめる鳥 カワセミ



カワセミは小さくて孤独な野鳥です。川辺に繁った木の横枝や岩の上に静止して水面を見つめる姿は独特の風情があります。

カワセミのこの姿から、「川の瀬を見つめる」→「川瀬見」→「かわせみ」の名になったとの説もあります。また、雛鳥が親から餌を受け取るときに発する「シー・シー」という声がセミ（蟬）の声に似ているからカワセミの名がついたとも言われています。

一方、「鳥名由来辞典」によると、古く奈良時代にカワセミは「そにとり」、「そび」とも呼ばれており、その後、鎌倉時代に「そびゅら」、「しょび」、室町時代には「しょうび（少微）」と呼ばれ、江戸時代には「しょうびん」になったと言われています。「しょうびん」といえば、同じ仲間に全身赤色の「アカショウビン」がいますが、カワセミの仲間はどれも原色に近い色調をしていますね。

カワセミ カワセミ科

カワセミの名前を知らぬものはないほどよく知られているが、姿を見たことのある人も少ない野鳥のひとつ。

本来、広い河口から山間部の池にも棲みついでいて、人とも出会うことの多い鳥で、翡翠のように色鮮やかな姿と、川面を飛び速さ、「ピー・ピー」と短く鳴く特徴ある声は見たものに鮮やかな印象を与える。

4、50年くらい前頃までは普通に見られる身近な野鳥だったが、一時絶滅も気遣われるほど減少していた。近年は、農薬の使用の適正化などにより少しずつその数を増加している。

緑化センターへは三篠川から溪流をたどってレストハウス横の池（センター池）まで来て餌を狙っている。途中にはダムや小池もあり、またセンター池の水際に巣穴が作られた形跡があるので、繁殖の可能性もあり、雌雄の追尾行動や求愛給餌が見られるかも知れない。

文と写真 吉見 良一氏

コーヒーで一息入れませんか
緑化センター レストハウス